

# 石川県漁海況情報



406号  
2018年7月12日発行

石川県水産総合センター 電話 0768-62-1324 FAX 0768-62-4324  
ホームページ <http://www.pref.ishikawa.lg.jp/suisan/center/sigenbu.html>  
携帯電話 [http://www.pref.ishikawa.lg.jp/mobile/suisan/center/sigenbu\\_files/p-index.html](http://www.pref.ishikawa.lg.jp/mobile/suisan/center/sigenbu_files/p-index.html)



## 本号の概要

### 大型クラゲ情報（期間:6月19日～7月4日）

- 長崎県対馬・五島、福井県越前町の定置網で大型クラゲの入網がありました。
- 東シナ海・黄海における大型クラゲの分布水準は低いと考えられます。

### 水産総合センター・トピックス

- 「漁業士認定書交付式が行われました」「加能ガニ・香箱ガニの資源を守る！」

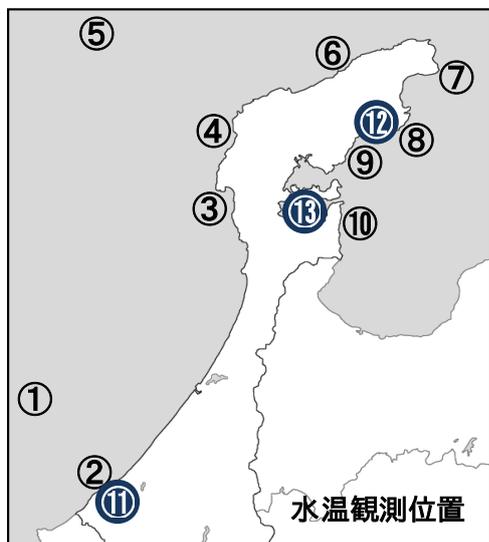
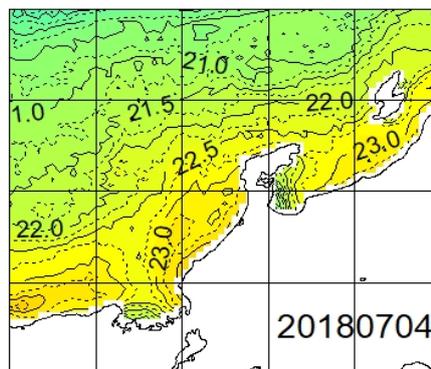
## 石川県周辺海域の水温（期間:6月30日～7月4日）

■ 沿岸の海面水温 7月4日の本県周辺（海岸線より30海里程度）の海面水温は22～23℃台で、過去5年平均との差は-2.0～±0.0℃程度でした。

■ 沿岸観測ブイの水温 今期の水温は20.8～22.7℃で、6月下旬から約3.6℃上昇しました。前年同時期との差は-0.6～+0.5℃、過去3年平均との差は-0.5～+0.4℃でした。

■ 港内の水温 今期の水温は21.7～24.8℃で、前年同時期との差は+0.6～+1.7℃、過去3年平均との差は+0.3～+1.3℃でした。

### 石川県周辺の海面水温



### 沿岸観測ブイの水温（深度10mの値）

観測位置	5日間平均 6/30～7/4	前年差	過去3年 平均差
① 橋立沖	休止中	データなし	データなし
② 橋立沿岸	22.7	+0.4	+0.1
③ 富来沿岸	22.6	+0.5	+0.4
④ 門前沿岸	22.2	+0.1	+0.1
⑤ 猿山岬沖	20.8	-0.6	+0.3
⑥ 曾々木沿岸	21.9	+0.1	+0.1
⑦ 小泊沿岸	21.6	+0.5	+0.3
⑧ 小浦沿岸	21.6	+0.5	+0.3
⑨ 鶴川沿岸	21.3	+0.2	+0.1
⑩ 岸端沿岸	21.0	+0.0	-0.5

### 港内の水温（深度1.5m・午前9時の値）

観測位置	5日間平均 6/30～7/4	前年差	過去3年 平均差
⑪ 橋立港	24.1	+0.9	+0.9
⑫ 宇出津港	21.7	+0.6	+0.3
⑬ 石崎港	24.8	+1.7	+1.3

## 大型クラゲ情報（期間:6月19日～7月4日）

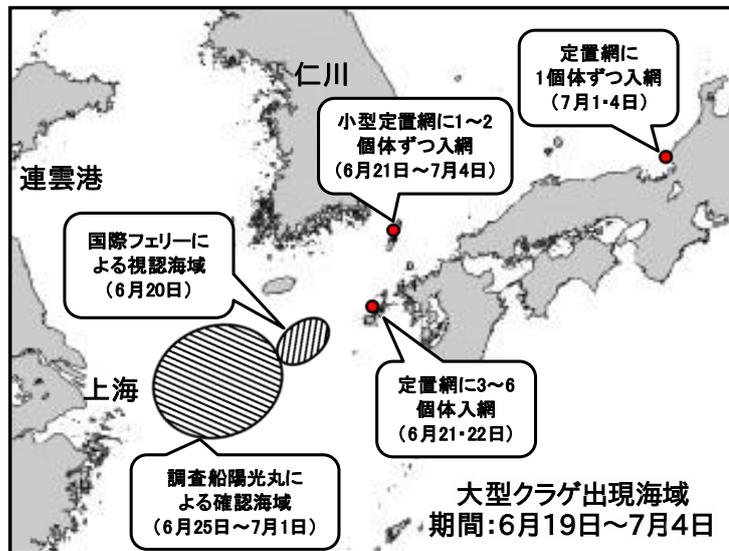
■ 国立研究開発法人水産研究・教育機構が7月4日に、一般社団法人漁業情報サービスセンターが7月6・7日に発表した大型クラゲに関する情報は次のとおりです。

**日本海** 対馬の定置網で6月21日～7月4日に1カ所当たり1～2個体（傘径30～60cm）の、大型クラゲの散発的な入網がありました。また、五島の定置網で6月21・22日に1カ所当たり3～6個体（傘径30～60cm）、福井県越前町の定置網で7月1・4日に1個体ずつ（傘径15～20cm）入網しました。

**東シナ海** 水産研究・教育機構の調査船陽光丸は6月25日～7月1日に東シナ海で目視調査等を行い、東シナ海西部で傘径20～100cmの大型クラゲの分布を確認しました。なお、ネット調査では入網がありませんでした（前年は1個体）。

**黄海** 広島大学は6月19日～29日に仁川（韓国）・連雲港（中国）間と上海・大阪間の国際フェリーで目視調査を行い、仁川・連雲港間では視認されませんでした。仁川・連雲港間における前々年度、前年度同期の最大密度は13.3個体/100m<sup>2</sup>、0.015個体/100m<sup>2</sup>であり、今年度は前年度と同様、前々年度を大きく下回りました。なお、上海・大阪間では済州島南沖で傘径50～100cmの小規模な集団（最大密度0.16個体/100m<sup>2</sup>）を視認しました。

■ 東シナ海および黄海における分布状況から、現時点では日本周辺海域における大型クラゲの大量出現の可能性は低いと考えられますが、対馬で少量ながら入網が続いていることから、石川県でも注意が必要です。水産総合センターでは今後も大型クラゲの出現情報を収集・提供してまいります。大型クラゲの目視・入網情報等がありましたら、水産総合センターまでお知らせください。



## 石川県主要港の水揚げ状況（期間:6月16日～30日）

■ **定置網** トビウオは60トン水揚げされました。5月前半から6月後半までの累計は123トンで、前年並み（148トン）で過去5年平均（175トン）を下回りました。ガンド・サバは前年を上回り、フクラギ・サワラ・サゴシは前年並み、マアジ・ブリは前年を下回りました。

■ **まき網** マイワシ・サバは前年を上回り、ウルメイワシは前年並み、マアジは前年を下回りました。

■ **底びき網・ごち網** ニギス・アカガレイ・ハタハタは前年を上回り、アマエビは前年並み、マダラは前年を下回りました。

■ **刺し網・釣り・その他** メッキダイは前年を上回り、イワガキ・マダコは前年並み、ベニズワイガニ・サザエ・ヤナギバチメは前年を下回りました。

■ **小型いか釣り** 25尾入りと30尾入りが主体で、前年並みでした。

集計期間 6月16日～6月30日 (水揚量の単位はトン)

魚種	水揚港							期間合計	
	橋立	金沢	富来	輪島	珠洲地区	宇出津	七尾地区	本年	前年
<b>定置網</b>									
まあじ	1.8	0.2	6.5	8.2	17.7	27.0	19.9	81.4	241.5
とびうお	1.2		19.9	11.1	3.8	12.7	10.8	59.6	71.2
ふくらぎ・こそくら	0.1		3.0	20.3	3.8	8.2	12.7	48.1	42.4
ぶり	2.0		18.1	13.8	0.1	0.5	7.6	42.1	89.3
がんど			18.6	8.0	0.8	1.3	2.5	31.3	15.4
さば	0.0		2.8	9.1	0.5	0.7	11.9	25.1	11.8
さわら・さごし	2.2		3.5	15.3	0.3	0.6	1.5	23.3	27.3
まいわし					0.0	5.6	17.5	23.1	0.1
ふぐ類	0.2		6.8	3.9	0.9	2.1	2.8	16.7	17.3
かたくちいわし						1.4	13.4	14.8	31.8
その他	3.5	0.2	11.5	6.7	4.0	17.7	13.0	56.8	87.8
<b>合計</b>	<b>11.1</b>	<b>0.5</b>	<b>90.9</b>	<b>96.4</b>	<b>32.0</b>	<b>77.7</b>	<b>113.5</b>	<b>422.2</b>	<b>635.9</b>
<b>まき網</b>									
まいわし	—		1133.8			—		1133.8	308.1
さば	—		432.9	4.6		—		437.4	282.7
うるめいわし	—		82.1	0.1		—		82.3	80.9
まあじ	—		3.8	29.5		—		33.3	402.0
ぶり	—	15.9				—		15.9	0.0
その他	—	0.0	1.6	2.5		—		4.1	13.4
<b>合計</b>	<b>—</b>	<b>16.0</b>	<b>1654.2</b>	<b>36.6</b>		<b>—</b>		<b>1706.9</b>	<b>1087.1</b>
<b>底びき網・ごち網</b>									
あまえび	16.9	46.4		4.1	4.6		—	72.0	78.6
にぎす	0.0	29.8	24.1	3.7	0.8	0.2	—	58.5	47.4
あかがれい	9.4	3.6	3.0	13.9	2.1		—	32.0	24.6
まだら	0.7	2.1	0.3	23.7	1.0		—	27.7	53.3
はたはた	2.2	1.4	1.0	7.7	8.0	7.3	—	27.6	15.6
その他	7.9	17.9	2.1	38.1	3.2	0.4	—	69.5	99.0
<b>合計</b>	<b>37.1</b>	<b>101.0</b>	<b>30.4</b>	<b>91.3</b>	<b>19.7</b>	<b>7.8</b>	<b>—</b>	<b>287.4</b>	<b>318.4</b>
<b>刺網・釣り・その他</b>									
べにずわいがに		31.1	14.7	2.9				48.7	77.3
いわがき	0.2		0.0	21.6		0.0	0.0	22.0	23.2
さざえ			1.6	2.2	1.5	5.0	3.0	13.4	16.8
まだこ	0.1	0.0		1.4	0.7	2.8	3.8	8.8	9.2
めっきだい(キガイ)	2.2	0.7	0.0	3.9	0.1			6.8	4.2
やなぎばちめ(ウスマバル)	0.1	0.1	0.0	6.0	0.0	0.0	0.4	6.6	8.4
まだい	0.1	0.0	0.4	5.2	0.2	0.5	0.1	6.6	8.0
ふぐ類	0.0		3.6	1.4	0.0	0.0	0.0	5.0	9.0
その他	3.4	3.1	3.5	33.8	1.8	3.7	4.3	53.5	75.9
<b>合計</b>	<b>6.0</b>	<b>35.0</b>	<b>23.8</b>	<b>78.5</b>	<b>4.3</b>	<b>12.1</b>	<b>11.6</b>	<b>171.4</b>	<b>232.0</b>
<b>小型いか釣り</b>									
するめいか20入り		0.5	5.5	10.5	11.2	0.0		27.7	24.1
するめいか25入り		0.6	8.7	30.8	49.6	0.1		89.8	81.8
するめいか30入り		0.1	5.5	29.5	55.9	0.2		91.4	134.7
するめいか40入り以上		0.1	1.7	9.3	15.1	0.5		26.7	44.0
<b>合計</b>		<b>1.3</b>	<b>21.4</b>	<b>80.1</b>	<b>131.9</b>	<b>0.9</b>		<b>235.6</b>	<b>284.7</b>
<b>総計</b>	<b>54.2</b>	<b>153.8</b>	<b>1820.8</b>	<b>383.0</b>	<b>187.8</b>	<b>98.6</b>	<b>125.2</b>	<b>2823.4</b>	<b>2558.1</b>

注:宇出津は松波港を含む、富来・輪島は一部未集計

## 漁業士認定書交付式が行われました

■ 平成30年7月4日(水)に石川県漁業士認定書交付式が県庁にて行われました。

■ 県では、地域漁業振興の中核的役割を果たす優れた漁業者について40歳未満の方を青年漁業士、40歳以上の方を指導漁業士として認定しています。

■ 今回は、県漁協能都支所所属の定置網漁業者7名、輪島支所所属の刺網漁業者1名、計8名が、平成30年1月29日から2月2日までの日程で行われた講習会を修了し、新たに漁業士として認定を受けました。

■ 当日は、出席者6名に対し、谷本知事から一人一人に直接認定書が手渡され、「資源管理の推進など、石川県の漁業振興、発展に向け活躍を期待します」との激励の言葉があり、これに対し新規漁業士を代表して能都支所所属の中田洋助氏が謝辞を述べられ、「漁業士として地域の先頭に立ち、安全で安心な水産物の供給に努めます」との決意表明がありました。県としては今後も漁業士の皆さんの活発な活動を支援していきたいと考えています。

■ 今回、認定を受けた方は次のとおりです。(青年漁業士)中田洋助、大高浩之、池田利希也、笹野耕太郎、喜多義昭、(指導漁業士)大黒恵介、紙子真一、東野亜希[敬称略]



## 加能ガニ・香箱ガニの資源を守る! (3月10日公開セミナー講演概要)

■ 石川県ではズワイガニの雄を加能ガニ、雌を香箱ガニと呼んでいます。本種は水深200~400mの海底に生息し、底曳網で漁獲されます。1980年代に資源が悪化し、漁獲量が落ち込んだことから、様々な資源保護の取組みが行われるようになりました。

■ ズワイガニの漁期は省令により11月6日から3月20日まで(雌については1月20日まで)と決められています。底曳網の主要魚種であるズワイガニ、アカガレイ、アマエビの生息域は互いに重複しているため、カニ

禁漁期中にアカガレイやアマエビを狙った操業を行うと、ズワイガニも漁獲(混獲)されてしまいます。これらのズワイガニは海に戻されますが、多くは死んでしまいます。このような混獲死亡が資源悪化を招いたことから、1980年代中頃から漁業者はカニ禁漁期中にズワイガニ分布海域での操業を禁止する取組みを行うようになりました。この取組みの効果は大きく、1990年代中頃にはズワイガニの漁獲量はV字回復し、アカガレイやアマエビの漁獲量も増加しました。その後も、操業禁止海域を拡大したり、操業を周年禁止する海域を設けたり、雌ガニの漁期を短縮するなど取組みが強化されています。冬の味覚の王様、加能ガニ・香箱ガニの資源は漁業者のたゆまぬ努力によって守られているのです。

